

図書館システム機能要件

[全般、共通事項]

分類	項番	要求仕様
1 インフラ	1	サーバOSはメーカー依存の無い柔軟なシステム構築が可能であること。
	2	クライアントOSはWindows11以降であること。
	3	利用者公開システムはiOS/Androidに対応したシステムであること。
	4	図書システムの各業務は最新の最新のブラウザ(Microsoft Edgeなど)上で動作可能であること。
2 セキュリティ	1	図書館システムは、セキュリティに配慮していること。
	2	図書館システムは、セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	3	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
	4	オペレータID/パスワードによるセキュリティー管理ができること。また、オペレータID毎に業務メニューの設定ができること。
	5	貸出/返却/予約や、利用者登録/検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
	6	以下のアクセス情報が保存できること。 (アクセス日/時刻、アクセス館/IPアドレス/オペレータID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号)
	7	アクセス記録を保存する/しないを任意設定で変更できること。
	8	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込み印刷ができること。
	9	保存されたアクセス記録をCSV形式にデータ出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込みデータ出力もできること。
3 言語	1	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。
4 操作性	1	主要な場面において、処理選択・コード値選択等がマウスおよびファンクションキーで操作できること。
	2	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのかが一目で分かるように注意表示ができること。
	3	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
	4	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。
	5	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。
	6	プルダウンに表示される順番は入れ替えができること。
	7	各種確認画面でのYes/No選択を、バーコード走査でできること。
	8	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。
	9	業務画面は画面サイズを任意に変更可能なこと。
	10	ブラウザ使用時に複数ウィンドウ処理ができること(例:複数業務の起動を行い資料登録途中に入力を中断し、貸出処理を行い、その後中断していた資料登録を継続可能)。ただし、IC関係機器等の外部機器接続端末を除く。
	11	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー&ペーストが可能なこと。

図書館システム機能要件

[全般、共通事項]

分類	項番	要求仕様
	12	表示中画面から全ての他画面へ切り替えが可能なこと（例：貸出⇒書誌登録）
	13	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。
	14	バッチ処理で必要な抽出条件を簡単な操作で指定できること。
5 保守性	1	サーバー環境は冗長性を持った構成であることとし、システムおよびデータのバックアップ機能を有すること。
	2	停電・瞬電時のバックアップ機能があること（無停電電源装置等）。
	3	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能でありクライアント毎の入れ替えは不要であること。
	4	一台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。
6 拡張性	1	図書館システムは、公共・学校を含む100台規模の図書館運用を保証するシステムであること。
	2	図書館システムは、オプションなどを追加することによりリライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。
7 その他	1	職員向けの「お知らせ・イベント情報」表示ができること。「お知らせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。
	2	当日の貸出や予約件数などの閲覧管理の状況を簡単に表示する機能を有すること。

[窓口業務一貸出・返却業務]

分類	項番	要求仕様
1 貸出	1	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借・館内閲覧に対応できること。
	2	一覧表示枠や利用者情報表示枠について、表示サイズの変更ができること。
	3	利用者コードと資料コードのバーコード走査のみで処理が可能なこと。
	4	バーコード走査により、「貸出確定」「貸出画面／返却画面切替」ができること。
	5	利用者の有効期限が迫っている場合、貸出画面で通知・更新可能なこと。
	6	館毎かつ利用者資格毎に貸出規則（貸出日数・延期日数・延期回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数）設定ができること。さらに、貸出日数・延期日数・貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。
	7	館毎かつ利用者資格毎に予約規則（予約有効日数・合計予約件数）設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。
	8	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。
	9	プライバシー保護のため書名の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
	10	期限切れ・貸出冊数・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	11	貸出中(状況)一覧画面で資料状態（「予約あり」や「延滞」等）の色分け表示ができること。また、表示色の変更ができること。
	12	継続貸出処理時、回数をカウントして継続貸出処理を制限する／しないが設定で選択できること。
	13	休館日設定により、返却予定日をカレンダー管理（休館日を避ける）し、また貸出画面での随時変更もできること。
	14	貸出状況一覧で、資料の最終返却者が確認できること。
	15	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。
	16	貸出完了までは貸出取消処理を行うことができ、統計にも反映されないこと。
2 返却	1	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。
	2	一覧表示枠や利用者情報表示枠について、表示サイズの変更ができること。
	3	書名の表示・非表示を予め設定できること。（プライバシー保護のため）。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
	4	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
	5	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。
	6	除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出・団体利用者貸出資料・BM貸出資料・相互貸借資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	7	予約されていた資料が返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。（印刷可否の設定ができること）。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。
	8	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージをの履歴が表示可能なこと。
3 督促	1	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキの印刷ができること。その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、ハガキ印刷をする利用者を任意に選択できること。また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。

[窓口業務一貸出・返却業務]

	分類	項番	要求仕様
		2	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により対象者の一覧表示後、メールで督促の通知ができること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。

[窓口業務－利用者管理]

分類	項番	要求仕様
1 利用者検索	1	利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。
	2	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、利用者区分、電話番号、住所、生年月日が確認できること。
	3	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。
	4	利用者の詳細表示は、簡易・詳細による切替が可能なこと。
	5	貸出状況一覧が表示できること。また、個人／家族、全館／自館をワンタッチで切り替えできること。
	6	予約資料一覧が表示できること。
2 利用者登録	1	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。
	2	家族の一人目を登録すると、以降は電話番号入力後ワンタッチで利用者データを複写し、氏名、生年月日、性別等を直すだけの連続登録ができること。この時入力する電話番号はハイフン、括弧の有り、無しに関わらず複写できること。
	3	住所コード数が多い時等の入力負荷軽減のため、住所コードを大分類(大字等)と小分類(小字等)とで2段階入力ができること。また、郵便番号・住所名などの直接入力によるフィルター機能を有すること。
	4	利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。
	5	家族共通の情報(電話番号、住所)は、家族の一人を修正することで、他の家族も一括更新できること。
3 利用者管理	1	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。
	2	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。
	3	利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容(督促・予約連絡等)とその発信日時が確認できること。

[窓口業務一資料検索・予約]

分類	項番	要求仕様
1 資料検索	1	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	2	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	3	各種の可変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする)
	4	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。
	5	10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。
	6	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。
	7	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。
	8	うろ覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。
	9	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
	10	検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。また、複本に対応していること。(検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること)
	11	検索結果は、利用可能/貸出中/貸出不可能/発注あり/除籍/相互貸借資料/未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。
	12	指示により、検索結果の印刷ができること。
	13	印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。
	14	検索中断件数を設定できること。また、設定によって最小入力文字数を任意に指定でき、検索実行時にチェックされ、操作員の判断により検索続行するか中止するかを選択できること。
	15	対象館を全館、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
	16	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵(ローカル)項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
	17	書誌項目をグループ化して表示できること。
	18	資料区分をグループ化し、絞込検索ができること。(一般書と児童書を分けて検索する事が可能。)
	19	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。
	20	上記の規則を任意設定できること。
	21	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。
	22	資料一覧画面では通常登録順(最新が上)だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列(ソート)できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、5パターン以上の設定ができること。
	23	前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと。(ヘッダーソートが可能なこと)
	24	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。
	25	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。

[窓口業務一資料検索・予約]

分類	項番	要求仕様
	26	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。
	27	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・AV等の種別毎に設定できること。
	28	検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。
	29	検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。
	30	種別（図書・雑誌・AV等）の複数指定による横断検索ができること。
	31	典拠データ登録時に、典拠番号により、同名異人特定検索、ペンネーム等の別名の自動検索ができること。また、その関連を一覧画面で確認できること。
	32	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。
	33	本に印刷されているISBNバーコードの読取り検索ができること。
	34	発注中等の蔵書していない(未所蔵)書誌のみデータの検索ができること。
	35	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力でも全タイトル検索ができること。
	36	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失/不明/弁償処理ができること。
	37	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。
	38	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応)プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。
	39	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード(著者名等)で再検索ができること。
	40	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	41	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	42	検索結果より、書庫出納票(レシート)が印刷できること。
	43	内容注記や一般注記のように、分ち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。
	44	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	45	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	46	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	47	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと。
	48	国立国会図書館が保有する書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと。
	49	TRC-TOOLiサイトとの横断検索が可能なこと。
	50	TRC-TOOLiサイトから取得した情報から、書誌登録・選定・発注・相互貸借の連携が可能なこと。
	51	検索項目を特定せず、キーワードのみの入力でも検索できること。

[窓口業務一資料検索・予約]

分類	項番	要求仕様
2 予約	1	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	2	館毎かつ利用者資格毎に予約規則（予約有効日数・合計予約件数）設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。
	3	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。
	4	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。
	5	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。
	6	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。
	7	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	8	相互貸借資料(借受資料及び貸出中資料)への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	9	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	10	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	11	予約メモ入力ができること。
	12	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。
	13	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	14	予約入力の件数統計(予約区分：窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。
	15	任意に予約取消ができること。
	16	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
	17	予約資料情報の一覧表が出力できること。
	18	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全関係ができること。
	19	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。
	20	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。
	21	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み/未連絡/不在の管理もできること。
	22	予約確保日(予約棚日)で抽出し、予約連絡ハガキを印刷できること。

[窓口業務一資料検索・予約]

分類	項番	要求仕様		
	23	予約確保日(予約棚日)で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。		
	24	予約連絡メール送信時、インターバル(件数、送信間隔)を指定できること。		
	25	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。		
	26	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること。		
	27	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)		
	28	WebOPACや館内OPACからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、職員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者毎にメール通知可否設定もできること。		
	29	複数の資料が全てそろった時に貸出可能とする、そろい待ち予約ができること。		
	30	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約ができること。		
	31	予約対象館を本籍館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館(グループ館:Aグループ館はA1館とA2館等)毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)		
	32	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。		
	33	予約利用者の受取希望館の選択ができること。また、BMについてはステーションの選択ができること。		
	34	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合に予約機能にて配送依頼ができること。また、複数館にある場合は依頼先館を選択でき、依頼と同時に依頼先へ配送依頼票を印刷できること。		
	35	予約者の受取希望館に合わせて複数の分館を地域(グループ)毎にまとめて設定できること。予約時には予約対象館を複数個指定するのではなく、予約対象地域を指定するだけで対象館全てに指定ができること。		
	36	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合、予約と同時に依頼先館のページプリンタに予約配送票を自動印刷できること。確保できる資料が複数館にある場合は、画面上で依頼先館を選択できること。		
	37	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。		
	38	バーコードの走査だけで、予約確保の取消しが可能なこと。		
	39	予約連絡メールは、自動発信もできること。		
	3	配送管理	1	予約配送および他館返却による配送管理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。
			2	配送館状況(A館→B館)、配送日等の状況をリアルタイムに確認ができること。
3			自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼取り消しもできること。	
4			他館から予約配送依頼されている資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼拒否もできること。	
5			一覧画面で配送状況(配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。	
6			一覧画面で配送依頼状況(配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。	
7			配送元館/配送先館毎の年間配送状況(返却時の本籍館配送、予約配送、予約取消毎の月毎配送件数)が印刷できること。	
8			他館で利用可能な所蔵がある場合、利用可能館へ配送依頼票の出力ができること。	

[利用者サービス館内OPAC]

分類	項番	要求仕様
1 利用者開放端末(館内OPAC全般)	1	最新のブラウザ(Edge)上で動作可能であること。
	2	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	3	セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	4	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
	5	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
	6	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
	7	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
	8	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	9	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字 (例『や』と『や』、『A』と『a』等) どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの (例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等) も、どちらで入力しても検索できること。
	10	検索中断件数の設定ができること。
	11	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。
	12	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。
	13	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	14	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	15	詳細画面から予約申込ができること。
	16	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	17	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	18	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	19	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	20	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	21	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	22	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。
	23	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。
	24	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約した場合、資料所在館に予約依頼票を印刷できること。
	25	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
	26	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。

[利用者サービス館内OPAC]

分類	項番	要求仕様
	27	予約完了時、利用者控えの出力ができること。
	28	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	29	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。
	30	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。
	31	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。
	32	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。
	33	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	34	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	35	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	36	典拠を参照した詳細検索が可能であること。
2 利用者開放端末(館内OPAC 大人向け)	1	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
	2	検索項目を指定するキーワード検索もできること。
	3	キーワード検索にて、全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
	4	全文検索ができること。
	5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版と9版の版数選択もできること。
	6	著者名=イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	7	雑誌ジャンル(例:スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
	8	ベストリーダー一覧が表示できること。ベストリーダーは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
	9	ベスト予約一覧が表示できること。
	10	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示できること。
	11	検索結果一覧を並び替えできること。
	12	検索結果一覧に条件を追加し、絞込みできること。
	13	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを指定して遷移できること。
	14	検索結果一覧の印刷ができること。
	15	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	16	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
	17	巻号一覧に条件を追加し、絞込みできること。

[利用者サービスー館内OPAC]

分類	項番	要求仕様
	18	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	19	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	20	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	21	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	22	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	23	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
	24	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	25	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	26	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
	27	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
	28	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
	29	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	30	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	31	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
	32	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
	33	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	34	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
3 利用者開放端末(館内OPAC こども向け)	1	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
	2	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
	3	こども向け画面では、こども向けの資料(区分で制御すること)に限定した検索ができること。
	4	キーワード検索にて全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
	5	著者名=チョウシタのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	6	ベストリーダー一覧が表示できること。
	7	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。
	8	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	9	検索結果一覧の印刷ができること。
	10	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。

[利用者サービスー館内OPAC]

分類	項番	要求仕様
	11	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	12	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	13	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	14	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	15	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
	16	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	17	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	18	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
	19	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
	20	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
	21	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	22	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	23	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
	24	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
	25	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	26	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
4	セルフ貸出機能	<p>1 専用機ではなく通常のパソコン端末で利用者自身が貸出・返却できること。</p> <p>2 館内OPACと切替運用ができること。</p> <p>3 貸出レシートの印刷ができること。</p>

[資料管理業務]

分類	項番	要求仕様
1 図書管理	1	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)
	2	複本のデータ管理ができること。
	3	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
	4	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。
	5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	6	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。
	7	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
	8	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	9	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	10	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	11	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	12	書誌項目をグループ化して登録できること。
	13	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	14	TRC-Tマーク：新刊マーク、抽出マーク、ローカルデータを一括登録できること。
	15	TRCマーク：内容細目ファイル、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。
	16	TRCマーク：内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
	17	TRCマーク：目次ファイルを一括登録できること。
	18	TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。TOOLi検索の結果から、マーク情報を確認し、図書登録画面にマーク情報を直接ダウンロードできること。この時、内容細目もあれば同時にダウンロードできること。
	19	TRCのTOOLi Ver3.0に対応していること。
	20	日販マーク：新刊マーク(NSマーク可変長、NSマーク固定長、ニッパン発注管理用データ)、抽出マーク(NSマーク可変長)、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。
	21	大阪屋マーク：新刊マーク(OPL新刊マーク(可変長、固定長))、抽出マーク(OPL原簿マーク(可変長、固定長))、ローカルデータ(OPL蔵書マーク(可変長、固定長))、内容細目情報(可変長)を項目のもれなく一括登録できること。
	22	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	23	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに切り分けて登録できること。
2 雑誌管理	1	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル/巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。
	2	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。

[資料管理業務]

分類	項番	要求仕様	
	3	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生/分離にも対応できること。	
	4	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。	
	5	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。	
	6	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。	
	7	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。	
	8	巻号を「巻/号/通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。	
	9	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。	
	10	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。	
	11	漢字で入力された項目を自動的に分岐して、中間検索対象にできること。	
	12	豊富なローカルデータを持てること。	
	13	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。	
	14	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。	
	15	書誌項目をグループ化して登録できること。	
	16	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。	
	17	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。	
	18	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。	
	19	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。	
	20	TRC社の雑誌MARC/Tの取り込みができること。	
	3	AV管理	1 曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。
			2 各種情報を可変長で登録し、検索できること。
		3 複本のデータ管理ができること。	
		4 マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。	
		5 著者名・シリーズ名・出版者名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力できること。	
		6 タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。	
		7 漢字で入力された項目を自動的に分岐して、中間検索対象にできること。	
		8 各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。	

[資料管理業務]

	分類	項番	要求仕様
		9	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
		10	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
		11	書誌項目をグループ化して登録できること。
		12	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
		13	TRC-Tマーク：AVマークを項目のもれなく一括登録できること。
		14	日販マーク、大阪屋マークほか、その他主要なマークについても項目のもれなく一括登録できること。
		15	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
		16	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに切り分けて登録できること。
		17	内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
4	蔵書管理	1	館コードにより分館の管理ができること。
		2	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。
		3	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
		4	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。
		5	コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。
		6	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存/復元ができること。
		7	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。
		8	区分値、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができること。 例：公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、書庫配架に変更する。
		9	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。
		10	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
		11	複数タイトルの資料(主に雑誌)を製本(合本)することができること。一度製本したデータを元にばらすこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。
		12	館内OPAC及びインターネット向けサービス(WebOPAC)で紹介する「おすすめの本」のバーコード指定を、オンライン登録(バーコード入力)/HHTからの一括登録のどちらでも可能なこと。
		13	「おすすめの本」のバーコード指定資料は、一覧印刷/CSVファイル出力が可能なこと。
		14	資料に付録の有無を登録することができること。
		15	資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。
		16	資料の除籍・削除処理時、他に利用可能な複本が無い場合にメッセージ表示が可能なこと。
5	蔵書点検	1	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。

[資料管理業務]

分類	項番	要求仕様
	2	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。
	3	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。
	4	蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力/累積し、最終的に不明資料を確認できること。
	5	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
	6	一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。
	7	各館(及び場所)毎に蔵書点検ができること。
6 発注	1	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。
	2	新刊マークを利用して、選書・発注処理ができること。
	3	新刊案内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。
	4	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報(月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。
	5	発注の取消しができること。
	6	発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。
	7	発注中の本に対して予約できること。
	8	予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。
	9	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。
	10	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	11	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	12	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	13	発注処理の前に選定データ(選書)の作成が可能であり、選定結果を確認後、発注できること。選定入力は資料検索・TOOLi検索と連携できること。これにより、複数館から選定データを起こし、発注館で一括して選定データを確認し発注処理ができること。
	14	TRCマーク：TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	15	TRCマーク：新刊マーク(新刊全件マーク・発注管理マーク)を一括登録し、発注時、選書データとして活用できること。新刊マーク一括登録時「新刊急行ベル」や「新継続」の本は自動で発注データを作成できること。その時、TRC発注データは作成しないこと。
	16	TRCマーク：「週刊新刊全点案内」のバーコード(TRCNo)を走査し発注できること。
	17	TRCマーク：TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。図書館システム画面上でTOOLiと直接通信し、TOOLi検索/ダウンロード/在庫照会/TOOLi発注/発注状況照会/月別注文状況/MARCデリバリー処理を行うことができること。
	18	TRCマーク：TOOLi発注用のデータ作成・送信ができること。また、見計らい・クイック発注にも対応できること。
	19	日販マーク：日販発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。

[資料管理業務]

分類	項番	要求仕様
	20	日販マーク：新刊マーク (NSマーク可変長、NSマーク固定長、ニッパン発注管理用データ)を一括登録し、発注時選書データとして活用できること。
	21	日販マーク：「ウィークリー出版情報」等のバーコード (NPLNo) を走査、またはISBN入力にて発注できること。
	22	大阪屋マーク：大阪屋発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	23	大阪屋マーク：新刊マーク (OPL新刊マーク)を一括登録し、発注時選書データとして活用できること。
	24	大阪屋マーク：OPLNo、またはISBN入力にて発注できること。
7 受入	1	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。
	2	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。
	3	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。
	4	雑誌等の年間一括発注 (継続発注) 本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入/受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。
	5	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。
	6	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。
8 予算	1	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。

[利用者サービスインターネットサービス]

分類	項番	要求仕様
1 インターネット向けサービス(WebOPAC全般)	1	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。
	2	最新の複数のブラウザ (edgeなど) に対応すること。
	3	レスポンスデザインに対応し、マルチデバイス (PC、タブレット、スマホ) において同等の機能と操作性を有すること。
	4	総務省が提唱するアクセサビリティの基準においてA以上とすること。
	5	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。
	6	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字 (例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等) どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの (例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等) も、どちらで入力しても検索可能であること。
	7	検索中断件数の設定ができること。
	8	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。
	9	操作ガイドは大人用 (漢字混じり)、子供用 (ひらがな)、英文の3種類に対応できること。
	10	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。
	11	各機能の利用回数統計が出力できること。
	12	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
	13	検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。
	14	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できる。
	15	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。
	16	キーワード検索にて、全館対象・自館限定等の館指定ができること。
	17	全文検索ができること。
	18	NDC分類一覧からの分類選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	19	著者名=イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	20	雑誌ジャンル (例：スポーツ、車、旅行、等) を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
	21	ベストリーダー一覧が表示できること。ベストリーダーは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
	22	ベスト予約一覧が表示できること。
	23	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	24	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。
	25	検索結果一覧を並び替えできること。
	26	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。

[利用者サービスインターネットサービス]

分類	項番	要求仕様
	27	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示されること。
	28	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	29	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	30	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	31	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	32	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	33	他サービスとの連携により書影の表示を行う機能があること。
	34	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	35	詳細画面から予約申込ができること。
	36	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	37	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	38	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	39	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	40	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	41	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	42	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。
	43	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約できること。
	44	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。
	45	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	46	複数の資料を一括で予約する場合、グループ予約・セット予約(巻揃え、優先順)が選択できること。
	47	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	48	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。
	49	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。
	50	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。
	51	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	52	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	53	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。

[利用者サービスインターネットサービス]

分類	項番	要求仕様
	54	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	55	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	56	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。
	57	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	58	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	59	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	60	典拠を参照した詳細検索が可能であること。
	61	予約申込時、宅配での貸出を指定できること。
	62	簡易検索／詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力するとキーワード候補が選択（サジェスト）できること。また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。
	63	検索結果一覧／詳細画面では、検索キーワードをハイライト表示できること。
	64	検索結果をキーワードでグループ化して簡単に絞り込み検索（ファセットナビゲーション）ができること。
	65	予約を申し込みたい資料を、一時的に保存できること。（予約かご機能） また、保存した資料についてメモ／カテゴリを登録できること。
	66	図書館のトップページに、SNSで発信しているタイムラインなどを埋め込むことができること。
	67	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館への問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。
	68	相互貸借館からの新刊本への予約は、一定期間受け付けないように制限できること。
	69	詳細検索では、著者名を参照した検索が行えること。
	70	詳細画面では、独自に登録した一次情報へのリンクが表示できること。
71	外部サイトへのリンクを表示し、指定してリンク先の画面が表示できること。	
2	SDIサービス	<p>電子メールによるSDIサービスが提供できること。</p> <p>※SDIサービス：特定テーマの最新情報を定期的に提供するサービス 例：「園芸」「ペット」などのキーワードを登録しておき、登録キーワードに合致する資料が受入となった際、その資料情報（タイトル、著者、出版者等）がメールで届く。</p> <p>1 利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容（キーワード）を登録できること。</p> <p>2 利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。</p>

[相互貸借]

分類	項番	要求仕様
1 相互貸借	1	借受本の簡易登録ができること。
	2	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌(タイトル)情報の簡易登録ができること。
	3	借受依頼の際、相互貸申込書の印刷ができること。
	4	借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌(タイトル)情報に簡易所蔵(ローカル)情報を登録と連動してリクエスト予約登録ができること。(リクエストした利用者に紐づけできること)
	5	相互貸借資料をリクエストした利用者に貸出できること。
	6	相互貸借資料を他館に返還する際、相互貸借借受資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。
	7	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。
	8	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出/返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。
	9	他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借貸出表を印刷し、添付して送付できること。
	10	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。
	11	年報(相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数)や実績一覧(借受タイトル・貸出タイトル)が印刷できること。

[AVブースサービス]

	分類	項番	要求仕様
1	AVブース管理	1	AVブースの利用予約ができること。
		2	利用者カード及びAV資料により、ブースの利用者/利用時間が自動的に設定できること。
		3	AVブース予約受付時に予約票の印刷ができること。

[学校図書館連携]

分類	項番	要求仕様
1 学校図書館連携	1	公共図書館業務と学校図書館業務の連携が可能なシステムであること。
	2	学校における公共図書館の蔵書活用を支援できるシステムであること。
	3	最新のブラウザ（Microsoft edgeなど）上で動作可能であること。
	4	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン（applet）やクライアントで動作する仕組み（JWS）などではないこと。
	5	セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	6	公共図書館と各学校図書館で複本管理ができること。
	7	先生・司書用の機能とは別に、児童・生徒自身で貸出・返却・資料検索ができること。
	8	児童・生徒用のインターフェースは、小学校低学年の児童が自ら利用することに十分配慮されたグラフィカルでわかりやすいものであること。タッチディスプレイでの運用できること。
	9	児童・生徒用の返却画面で予約資料の確保ができること。
	10	児童・生徒用の返却画面で予約資料返却時、予約情報（予約利用者のクラスと氏名、予約資料タイトル等）が表示できること。
	11	児童・生徒用の資料検索は、公共図書館の館内OPACこども用と同等機能であること。
	12	児童・生徒用の資料検索から予約申し込みができること。
	13	児童・生徒用画面からの予約申し込みは利用者番号の入力だけでできること。運用設定に応じて、パスワード認証もできること。
	14	学校で児童・生徒が使う利用者カードが、現在、公共図書館に導入されている図書館システムでも共通に利用できること。
	15	各学校、公共図書館との資料の横断検索ができること。
	16	クラス単位での進級/卒業処理が一括で行えること。
	17	クラス更新後、クラス毎に出席番号を設定できること。生徒データを男女別、または男女混合で自動的に氏名順に並び替えができること。
	18	CSV形式のデータの取り込みによる利用者データの一括登録ができること。
	19	学校単位での貸出規則管理ができること。
	20	学校側で図書番号のバーコードラベル出力ができること。
	21	公共図書館側で登録した書誌(タイトル)情報(MARCデータ含む)を基に学校側での複本登録ができること。
	22	学校側でも図書・雑誌・AV資料の新規登録/修正/削除ができること。
	23	先生・司書用機能では、公共図書館端末相当の貸出・返却・予約・資料検索ができること。
	24	学校毎に学校用のPC端末を利用してオンラインによる蔵書点検ができること。
	25	蔵書点検で、除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを印刷できること。
	26	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
	27	各種一覧・統計帳票は、Excelと連携し印刷プレビューができること。必要に応じてプリンタに印刷もできること。

[学校図書館連携]

分類	項番	要求仕様
	28	学年・クラス別による日別、月別及び年別の貸出冊数の統計帳票の出力が可能であること。
	29	多読者貸出資料の印刷ができること。
	30	図書バーコードを貼り替えたり、登録し直すことなく、学校間で図書の相互貸借ができること。
	31	公共図書館、または、他校の所蔵を検索し、相互貸借依頼をかけることができること。
	32	依頼を受けた図書館・学校は、許可/保留/拒否の回答とコメントの返信ができること。
	33	依頼状態はリアルタイムに検索・確認できること。
	34	相互貸借で貸し出された本は、貸出館・校とは別の図書館・学校へ、又貸しができること。
	35	相互貸借で貸出中の本に、図書館・他校からの貸借依頼を受けた場合は、借受校が返却処理を行う際に、次の貸出校への回送指示が自動で表示できること。
	36	貸借本の受入・返却は管理画面でのバーコード読み取りのみ操作で行えること。その際、ローカル情報の移動も自動で行われること。
	37	相互貸借で貸し出された本の所在・状態は相互貸借管理画面で、リアルタイムに確認できること。

[利用者サービス]

分類	項番	要求仕様
1 読書推進サービス機能	1	利用者向け読書推進支援として、インターネットを通じた仮想本棚・書評等の情報を利用者に提供できること。
	2	サービス利用時は、利用者コード／パスワードによる認証が必要なこと。
	3	当館インターネット蔵書検索で、当館蔵書資料の書評情報が表示できること。
	4	利用者の読書記録(当館貸出履歴情報)を仮想本棚として閲覧できること。
	5	利用者の予約記録(当館予約履歴情報)を仮想本棚として閲覧できること。
	6	読書記録・予約記録の取得、及び、閲覧については、利用者自身で同意することによりサービス可能であること。
	7	当館インターネット蔵書検索結果から、利用者自身で「これから読みたい本」を読書状態(「読みたい」)を指定して仮想本棚に登録・閲覧できること。
	8	仮想本棚に登録されている情報は、利用者自身で削除できること。
	9	仮想本棚は利用者自身でカテゴリを設定し、分類できること。
	10	仮想本棚で設定したカテゴリにより、絞り込み検索ができること。
	11	仮想本棚で設定したカテゴリにより、並べ替えができること。
	12	当館自体が仮想本棚に登録することで、当館おすすめ本としてインターネットに公開できること。
	13	当館おすすめ本は複数登録・公開できること。
	14	当館おすすめ本はカテゴリ(一般・児童等)毎に登録・公開ができること。
	15	当館おすすめ本はカテゴリ毎に絞り込みができること。

[帳票]

分類	項番	要求仕様
1 帳票印刷	1	統計資料はExcelと連携し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。
	2	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイル項目見出しつきで出力されること。
	3	日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。
	4	統計表(日報、月報、年報)についてひとつの出力指示から複数帳票を出力できること。
	5	図書館が作成する要覧および学校図書館統計に記述するための数値を出力できること。